现代日语阅读教程

2

高等学校教材

王秀文 主编
李庆祥 副主编

高等教育出版社

高等学校教材

现代日语阅读教程

2

王秀文　主　编
李庆祥　副主编

高等教育出版社

(京) 112 号

内 容 提 要

本书是为大学日语专业学生和学习公共日语的学生编写的泛读课教材。全书由 4 册组成，每册包括 25 篇课文以及词语解说、各种形式的练习。目的在于通过有指导的大量阅读，提高学生阅读理解和外语思维的能力，巩固精读课所学语言知识、扩大知识面和词汇量，丰富日语语感等。

责任编辑 尹学义

现代日语阅读教程 2

王秀文 主 编

李庆祥 副主编

*

高等教育出版社出版

新华书店北京发行所发行

国防工业出版社印刷厂印刷

*

开本 850×1168 1/32 印张 6.125 字数 150 000

1995 年 2 月第 1 版 1995 年 2 月第 1 次印刷

印数 0001—1 685

ISBN7-04-005087-0/H·571

定价 4.10 元

编写说明

《现代日语阅读教程》是为适应我国日语教育的发展和日语教学的需要而编写的辅助性教材，主旨在于通过有指导的大量阅读，提高学生阅读理解和外语思维、分析的能力，巩固所学的语言知识，扩大知识面和词汇量，丰富日语语感等，以达到运用日语进行交际的目的。适用于日语专业的泛读课、大学日语的阅读课和各类日语教学单位的教学，也可供广大自学日语的人员使用。

本套教材分为四册，每册25课，供教学单位选择使用。每课由课文、ことばの説明、練習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ等部分构成。课文均系原文，并力避国内其它教材中已出现的文章。文章长度以1500字左右为起点，渐次增加至3500字左右，在编排上考虑了难易程度的循序渐进、由浅入深。选材时充分注意了文章的思想性、实用性、知识性、科学性和趣味性，同时也兼顾题材的广泛性和体裁的多样性。为扩大学生的视野和知识面，还有意选用了个别从语法和句子结构角度来看不是太规范的文章。

"ことばの説明"部分，从课文中提出影响阅读、理解的词语2%左右，标注日语读音或汉字，并注以中文对应词或解释。对少量意思上一目了然，但发音有些难度的汉语词汇和一般性人名、地名等在课文中标注"振り仮名"。《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》中规定的词汇原则上不在此提出。

练习的编写以努力提高学生的理解能力和突出它在教学中的指导性作用为原则。"練習Ⅰ"以词语练习为主，从课文中提出与文章理解密切相关的词语(包括语法现象)5个左右作为问题，每个问题后设答案若干，以选择的方式进行语义及用法方面的练习。"練習Ⅱ"以内容练习为主，从课文中提出与文章内容的理解密切

相关的问题(包括语法和句法现象)5个左右,结合文章内容在每个问题后设答案若干,供选择练习。"練習Ⅲ"结合文章的主题思想和中心内容提出问题2个左右(本项练习从第一册第15课开始设),供学生从语篇的角度进行思考、分析和概括。"練習Ⅳ"为快速阅读部分,每课选择一篇题材和内容与正文相近的短文为语言材料,并从中提出3个左右的问题以选择的方式供理解练习。短文亦均选用原文,选用标准与课文部分相同。这一部分为教学上的补充内容,在时间要求和教学方法上可作更灵活的处理。

《现代日语阅读教程》1～4册由王秀文(辽宁师范大学)任主编,李庆祥(山东大学)任副主编。第二册由王秀文、关春影(辽宁师范大学)、李庆祥编写,在辽宁师范大学任教的高岛康子先生审校了全文。

由于我们经验不足,水平有限,加之时间仓促,错误及不当之处在所难免,欢迎日语界同仁及同学们批评指正。

本套教程第1、2册曾经部分日语专家、教授开会审定,参加审稿会的有(依姓名笔画序):于长敏先生(中国高校外语专业教学指导委员会委员、吉林大学外语学院院长、教授)、尹学义先生(中国高校大学外语教学指导委员会委员、国家教委高等教育出版社编审、教材发展研究所研究员)、刘和民先生(中国日语教学研究会顾问、大连外语学院教授)、刘耀武先生(中国日语教学研究会会长、黑龙江大学外语学院副院长、教授)、胡振平先生(中国高校外语专业教学指导委员会委员、中国日语教学研究会常务理事、洛阳外语学院教授)、徐祖琼先生(中国高校大学外语教学指导委员会委员、日语组副组长、中国大学外语教学研究会副会长、复旦大学教授)。审稿会上,各位专家、教授对本教程给予了充分肯定,并提出了许多宝贵的意见和建议,对此谨表衷心的感谢。

本教程选用的文章涉及到很多作者,其中很多难以查询、联系。对此,敬请各位作者给予谅解,同时在此谨表诚挚的谢意。

此读后删。需要全本请在线购买

最后，本教程的编写和出版得到高等教育出版社外文编辑室主任尹学义先生的大力支持和帮助，特表谢忱。

编者

1994年4月10日

目　録

第一課　学校のはじまり …… 1
第二課　年中行事と信仰…… 8
第三課　赤い風船 …… 15
第四課　中立 …… 22
第五課　海外旅行 …… 29
第六課　体を守る皮膚 …… 37
第七課　イモ洗いとムギ拾い …… 44
第八課　酒樽と人間 …… 51
第九課　嫉妬について …… 58
第十課　日本と外国との交通 …… 65
第十一課　いなむらの火 …… 72
第十二課　日本家屋の特色 …… 79
第十三課　笑いについて …… 86
第十四課　財政 …… 94
第十五課　技術者たちの外交…… 101
第十六課　日本語の歴史…… 108
第十七課　村の泉…… 116
第十八課　漫画と科学…… 125
第十九課　洞爺丸の遭難…… 133
第二十課　会社…… 141
第二十一課　保護色…… 148
第二十二課　「生まれ」による差別…… 156
第二十三課　結婚式…… 163
第二十四課　「ニューヨークの北京っ子」が大反響 …… 171
第二十五課　季節感…… 180

第一課　学校のはじまり

明治維新によって，日本は大きく変わりました。

それまでは，主として武士だけが学問をしていましたが，政府は，新しいりっぱな国をつくるには，すべての国民にしっかりした教育を受けさせなければならないと考えました。

そこで，明治四年に文部省をつくり，五年には，学校制度を定めて，新しい教育に向かって第一歩をふみだしました。この制度は，全国に八つの大学，二五六の中学，五三．七六〇の小学校をつくるという，大きな計画でした。それまでのような差別教育はなくなり，四民平等の原則によって，だれでも教育が受けられるようになりました。学制の出された翌年には，男子の四六パーセント，女子の一七パーセントくらいの人が，小学校で学ぶようになったということです。

はじめのうちは，先生がたりなくてこまったようです。教え方も，寺子屋のころとあまり変わりませんでした。けれども，先生を養成する師範学校や，最高学府としての帝国大学（国立大学）などがつくられてくると，学校制度はしだいにととのってきました。そして，明治四十年ごろには，学齢期の子供の九五パーセント以上が，小学校へ通うようになりました。

このような国立の学校に対して，福沢諭吉（ふくざわゆきち），津田梅子（つだうめこ）などは，それぞれ独特の校風を持った私立学校をつくり，自分の経験を生かした教育を行ないました。

福沢は若いころ，幕府の役人にしたがってアメリカへ行き，西洋の合理的な思想に心をひかれました。そして，封建的な思想に反対し，西洋の思想を日本に広めようと考え，慶応（けいおう）四年（一八

六八年・明治元年)に慶応義塾をつくりました。

ここでは,国立の学校とちがって,自由な空気を重んじ,新しい時代にふさわしい人間を育てる教育が行なわれました。また,福沢は,「天は人の上に人をつくらず,人の下に人をつくらず」ということばではじまる『学問のすすめ』という本を書きました。

慶応義塾からは,実業家や政治家など,有名な人が出ています。

津田梅子は,六才でアメリカに留学し,帰国してから一生を女子教育にささげた人です。岩倉具視が欧米に向かって出発するとき,五人の女子留学生をつれて行きましたが,その中で,いちばん若かったのが,この津田梅子でした。

梅子の父は農学者で,すすんだ思想の持ち主でした。かれは,日本に文明をもたらすのは,教育のある女性だと考えていました。そういう女性をつくるためには,おさないうちに欧米に送って教育しなければならないと,まだ六才の自分のむすめを手放す決心をしたのです。

梅子は,アメリカ人の家庭で,アメリカ人と同じ生活をしながら,アメリカのことば・風俗・習慣・ものの見方などを身につけて,十一年後の明治十五年に帰国しました。

帰国後,女学校で英語を教えましたが,しとやかで従順なだけの女性をもとめている日本の社会に満足できませんでした。そこで,明治二十二年に,ふたたびアメリカに留学して,大学で生物学を学んで帰国したのち,明治三十三年に,私立の津田女子英学塾をつくりました。

福沢や梅子のほかにも,新島襄(にいじまじょう)の同志社,大隈重信(おおくましげのぶ)の東京専門学校(のちの早稲田(わせだ)大学)などがつぎつぎとたてられ,外人宣教師によって,ミッションスクールもたくさんつくられまし

た。こうして，公立・私立ともに，学校教育はさかんになっていきました。

［ポプラ社，『日本の歴史 9』による］

ことばの説明

明治維新［めいじいしん］	明治维新(1868年后，日本实行的不彻底的资产阶级革命，立宪，废藩立县，建现代化军队，搞工业化等。)
文部省［もんぶしょう］	文部省(主管教育、学术、文化)
差別教育［さべつきょういく］	不平等教育
四民平等［しみんびょうどう］	人人平等(四民指士农工商)
寺子屋［てらこや］	私塾(江户时代招收平民子弟教授读、写、珠算等学问的地方)
慶応義塾［けいおうぎじゅく］	庆应义塾(1920年改称为庆应义塾大学，私立大学，本部设于东京)
重んじる［おもんじる］	重视，注重
持ち主［もちぬし］	持有者
岩倉具視［いわくらともみ］	岩仓具视(1825～1883年，政治家，1871～73年率使节团赴欧美考察)
手放す［てばなす］	让孩子离开父母；放手，放弃，卖掉
しとやか［淑やか］	稳静

外人宣教師[がいじんせんきょうし]	外国传教士
ミッションスクール	教会学校
英学塾[えいがくじゅく]	教授英语和英美学问的私塾

練習 I

1.「すべての国民にしっかりした教育を……」の「しっかり」はどんな様子を表しているか。
   a.物事がかたく強い様子
   b.考え方,性格などが堅実で信用できる様子
   c.気持ちをひきしめ,ゆだんのない様子
2.「小学校で学ぶようになったということです」の言い換えとして,次のどれが適当か。
   a.小学校で学ぶようになったというわけです
   b.小学校で学ぶようになったというところです
   c.小学校で学ぶようになったそうです
3.「学校制度はしだいにととのってきました」の「しだいに」は次のどの意味にあてはまるか。
   a.ますます
   b.だんだん
   c.いよいよ
4.「すすんだ思想の持ち主でした」にある「すすむ」は次のどの使い方にあたるか。
   a.彼はすすんでやった
   b.社長にまですすんだ
   c.文化のすすんだ国
5.「こうして,公立・私立とともに」の「こうして」は次のどの意味か。
   a.現在していることがらを表す

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo

b. 前に話したことがらを表す
c. このようなようすそのものを表す

練習Ⅱ

1.「それまでは,主として武士だけが……」にある「それ」は何をさしているか。
a. 学校のはじまり
b. 学校制度が定まる
c. 明治維新
2.「学制の出された翌年には」の「翌年」は何年さすか。
a. 明治四年
b. 明治五年
c. 明治六年
3.「ここでは,国立の学校とちがって」の「ここ」は何をさしているか。
a. 最高学府としての帝国大学
b. 独特の校風を持った私立学校
c. 慶応四年につくった慶応義塾
4.「そういう女性をつくるためには,……」とあるが,どういう女性なのか。次から選びなさい。
a. すすんだ思想を持った女性
b. しとやかで従順なだけの女性
c. 教育のある女性

練習Ⅲ

1. 日本政府が新しい教育を始めたのはなぜか。
2. 福沢の「天は人の上に人をつくらず,人の下に人をつくらず」はどういう意味か。

練習Ⅳ

次の文を読んで後の問いに答えなさい。

過疎地の教育をどうするか

この5年間の平均をとると，毎年全国でおよそ200の分校が廃止されている。人口流出の激しい山村・離島(はなれじま)で児童数が年々激減していくからである。たとえば，島根(しまね)県・佐賀(さが)県などでは，この10年間に県下の小学生の数はほぼ半減した。その結果，普通学級は2つの学年で1クラスを編成する複式学級となり，ついで3つの学年で編成する複々式学級となり，最後には全校で1つのクラスしか存在しない単級式となっていく。……

今，へき地の教師たちは毎日の授業で「残す教育か，出す教育か」という問題に直面している。土地を出て，都会生活を送るために必要な教育を与えるべきなのか。それとも生まれた土地に残って，これを守るための教育であるべきなのか。これは正直のところ，誰もが責任ある回答を出せるものではない。……

問1 「残す教育か，出す教育か」とあるが，どんな意味か。

a. 生まれた土地を出て，都会生活を送るために必要な教育

b. 生まれた土地に残ってこれを守るための教育か，土地を出て都市生活を送るために必要な教育

c. 教師たちがへき地に残って教育をするか，それとも都会へ行って教育をするかの教育

問2 「土地を出て」の「土地」はどんな意味か。同じ意味のものを次から選びなさい。

a. 土地をきりひらく

b. バスの乗客のほとんどは土地の人ばかりであった

c. 土地を手放す

問3 「これは正直のところ」の「正直のところ」はどんな意味か。正しいと思うのを次の中から選びなさい

a. 正直な部分

b. 正直に言って

c. 正直な地方

第二課　年中行事と信仰

十一月十五日は，七五三です。七五三というのは，子供が七歳，五歳，三歳になったのを祝う日です。それで，そのとしの子供のいるうちでは，子供をつれて，神社へおまいりに行きます。子供たちは，この日のために作ってもらった着物をきて，うれしそうです。親は子供がこのとしまでぶじに成長したことを神に感謝し，また，これからも，健康でよい子になるようにとねがうのです。子供たちは，「千歳あめ」という菓子を買ってもらいます。この菓子は，千年も生きるようにというねがいをあらわすものです。

七五三は中国からつたわったもので，むかしは貴族や武士の間でおこなわれていました。それが江戸時代の中ごろから，ひろく一般の人々にもおこなわれるようになりました。女の子は三歳と七歳，男の子は五歳のとき祝うのがふつうですが，地方によっては，ちがうこともあります。ともかく，子供が成長していくことを祝うのです。

日本には，七五三のような風習がたくさんあります。正月の行事，節分，ひなまつり，ひがん，たんごの節句，おぼんなどです。また，クリスマスも近ごろは，日本ふうな行事になりました。このほか，農村では田植え祭りとか，新穀感謝の祭りなどがあり，町では初うま，えびすこうなど商売がうまくゆくようにという商人たちの祭りがあります。また，各地の神社には季節ごとの祭りがあって，まったく一年じゅう休むひまもないほどです。

このようなたくさんの行事の中で，七五三のように，日本じゅうどこでも一年に一度きまった日におこなう行事を，年中行事と言います。

年中行事は，目的はだいたい同じですが，やり方は，所によってずいぶんちがいます。また，東京のような大きな都会では，だんだんおこなわれなくなったり，新しい形にかわってきたりしています。

年中行事には，はじめは，神社や寺に関係の深いものが多かったのですが，現在は，宗教の面から考えると，あまり大きな意味を持っていないものもあります。東京などでは，たいへん形式的になって，七五三でも，神社へ行くからといって，その人たちが神道を信仰しているとはかぎりません。仏教の人もあるのです。また，クリスマスを祝うからといって，みなキリスト教を信じているのではありません。明治時代になってから，西洋の宗教として，その行事が多くの人々にめずらしがられたからです。クリスマスのほんとうの意味を知らないで，ただ西洋のまねをしている人が多いのです。

このように，日本には，たくさんの宗教があります。第二次世界大戦前までは，一つの宗教だけを熱心に信じている人は別ですが，多くの家には神だなと仏壇とがありました。一つの家で，神道の行事も，仏教の行事もおこなわれていたのです。

仏教が日本にはいってきたのは6世紀ですが，それ以来仏教は，それまで日本人が持っていた宗教と一つになってしまいました。その上，仏教といっしょに，インドや中国のいろいろな信仰がはいってきて，日本の宗教の中にとけこみました。このようにして日本では，たくさんの神や仏が信じられるようになりました。そして，そのたくさんの神仏は病気をなおす神，商売をさかんにしてくれる仏など，それぞれ独特の役目を持っています。日本人は神や仏を，それぞれの役目によって信仰しているばあいが多いのです。

［文化庁編，「外国人のための日本語読本　初級3」による］

ことばの説明

年中行事[ねんちゅうぎょうじ]	一年的传统节日活动,例行的仪式
おまいり[御参り]	参拜神佛
七五三[しちごさん]	七五三节(男孩五岁,女孩三岁、七岁时在十一月十五日举行的祝贺式)
千歳あめ[ちとせあめ]	千岁饴(日本小孩过"七五三节"时吃的棒状饴糖)
節分[せつぶん]	立春的前一天(大约在二月三、四日)
ひなまつり[雛祭り]	女孩节(日本3月3日陈列偶人,供白酒、点心、桃花,祈求女孩儿幸福的节日活动)
ひがん[彼岸]	超度(春分、秋分前后各三天,一共七天期间,人们悼念亡灵的活动)
たんごの節句[端午のせっく]	端午节
おぼん[お盆]	盂兰(盆)会
クリスマス	圣诞节
田植え祭り[たうえまつり]	插秧节
新穀感謝[しんこくかんしゃ]	新谷丰收谢谷神
初うま[はつうま]	(阴历二月的第一个午日举行的)稻荷神社的庙会
えびすこう[恵比須講]	(日本阴历十月二十日或正月十日、二十日的)祭财神
キリスト教[キリストきょう]	基督教